



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 井上 富雄
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



平成23年度昭和大学入学式挙行される

歯学部長 宮崎 隆

平成23年度昭和大学入学式が、去る4月8日(金)午前10時より、原宿の明治神宮会館に於いて厳粛に執り行われました。3月11日の東日本大震災以降、東京はしばらく天候不順でしたが、数日前から春たけなわとなり、明治神宮境内の新緑の櫻と満開の桜が入学生を迎えてくれました。



今年の新入生は、医・歯・薬・保健医療学部合わせて、583名(編入生を含む)でした。ご父母の出席も含めて、1800名収容の会場は2階席まで埋め尽くされました。開式に先立ち、東日本大震災で亡くなられた方のご冥福を祈って全員で黙祷を捧げました。

式次第に従い、片桐学長から全新生代表の飯島靖博君(医学部)に入学許可証が授与されました。続いて片桐学長から、「至誠一貫」という本学の建学の精神を集約した言葉をまず覚えて、友人に対する思いやりの気持ちをもって全寮生活をベースにした富士吉田校舎での初年時を過ごし、将来、高い倫理感と優れた人間性を持った医療人として大成するように告示がありました。続いて小口理事長から本学の歴史と建学の精神について紹介があり、医療を通じて社会に貢献できる人材を育成するために、新生に対して支援を惜しまないので頑張ってくださいと祝辞がありました。

各学部の代表による新生宣誓では、歯学部を代表して松本晃之輔君が、大震災を目の当たりにして命の尊さを改めて考えさせられ、至誠一貫の精神で患者さんの健康に貢献する歯科医師を目指して幅広く学業に励みたいと力強く宣誓をしました。新生歓迎行事実行委員の歓迎の挨拶に引き続き、恒例になった応援指導部による新生歓迎演武があり、最後にグリークラブのリードで校歌を斉唱し閉会しました。新生は昼前に14台のバスに分乗して富士吉田キャンパスに向かいました。

新生が富士吉田校舎で充実した生活を送り、成長して旗の台校舎に進級してくるのを楽しみにしています。

教授就任挨拶

歯科麻酔科 飯島 毅彦

本年4月1日付で昭和大学歯学部歯科麻酔科教授を拝命した飯島毅彦と申します。

私は昭和58年に東京医科歯科大学歯学部を卒業、大学院を修了後、米国、ドイツにて研究の修業を積み、平成4年に帰国後は杏林大学医学部麻酔科に勤務しました。以後19年



にわたり、医学部学生、研修医、麻酔科医の教育、研究、臨床を指導してきました。杏林大学は三鷹にございまして年間手術件数1万例をこなしています。麻酔科医局員は約30名、手術室、ICU、ペイン、緩和医療に携わっています。私は歯科医師ですが、全身管理は医科も歯科も垣根を越えて患者のために確立すべき一分野だと考えてきました。各診療科は疾患の診断と治療を目的としますが、麻酔科は特定の疾患を対象としていません。患者さんにいかに安全に医療を、特に侵襲的な外科医療を受けてもらうか、そして長期予後を含めて医療の恩恵を受けてもらうようにコーディネートすることを目標としています。これまで、多くの患者さんを拝見し、広い経験を積んでまいりました。これからは歯科医療のために自分の経験を生かしていこうと思っております。教科書に書いてある全身管理の知識だけではなく、より実践的な知識を広めていくことができればと思います。歯科患者もさまざまな全身的な合併症を持っています。そのような患者さんが生きるための基本である食べるということをちゃんと確立するためには歯科医療を受ける必要があります。その人それぞれのバックグラウンドに合わせた手術や歯科治療を受けていただくためには全身状態を把握できる麻酔科医がお役にたつと思います。麻酔をかけるということだけでなく、全身疾患の見方、そして管理法を発展させていくことが歯科医療の発展に役立つものと思っています。

現在、歯科麻酔科の医局員は20名を超える所帯になっており、前教授の吉村節先生が基盤を固められました。この基盤を生かして、さらに医局員が伸びていくように指導していきます。各先生方のご指導とご協力を賜れますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

平成23年度昭和大学入職式が行われました

歯学部長 宮崎 隆

学校法人昭和大学の平成23年度入職式が、4月1日午前10時から上條講堂で開催されました。本年度採用された新入職員は、研修



医(医師)79名、研修医(歯科医師)66名、事務員42名、看護師・助産師371名、その他の技術・技能職員21名(歯科衛生士7名を含む)の合計579名でした(教育職員を除く)。式は外川人事部長の司会で進行され、最初に小口勝司理事長が、学校法人の歴史と建学の精神を紹介し、本学の使命は社会で貢献できる優れた医療人の育成であるので、新入職員は自ら研鑽するとともに学生や後進の教育にも責任を持って欲しいと挨拶されました。引き続き片桐 敬学長が、至誠一貫の言葉に集約される本学の建学の精神を忘れず、職員すべてが教育への責任と奉仕の精神を持つことが重要であると挨拶されました。小口理事長から代表の秋山裕昭さんに辞令が交付され、中丸麻衣さんの宣誓に引き続き校歌を斉唱し10時半に閉会しました。新入職員が新しい職場に早く慣れて活躍することを期待します。

平成23年度大学院入学式 挙行される

大学院歯学研究科運営委員長 佐藤 裕二

4月2日に昭和大学大学院全体の入学式が上條講堂で行われました。歯学研究科は19名でした(医学研究科53名、薬学研究科4名、保健医療学研究科13名)。学長告示、理事長祝辞に続き、4研究科長(学部長)が順番に挨拶されました。4研究科を代表して歯学研究科:丸山範子さんが宣誓を行いました(写真)。校歌斉唱ののち、各研究科に別れて、オリエンテーションが行われました。私は今年度から研究科運営委員長を拝命したので、前委員長の上條教授に補佐していただき、履修要項との説明と激励を行いました。

今回、入学した大学院生には、医系総合大学の一員として、全身の健康との関わりをもとに歯科医学に関する先端的・独創的な研究を推し進めて行っていただくことを期待しています。



Multi Doctor プログラムが実施されます

大学院歯学研究科運営委員長 佐藤裕二

4月2日の大学院オリエンテーション時に、今年度から開始された Multi Doctor プログラム履修生のオリエンテーションが行われました。このプログラムは、次世代の歯学研究者を育成するために、学部在籍中に、学部のカリキュラムに並行して、大学院の教育を受け、研究マインドを醸成することが目的です。2年間まで履修でき、大学院の1年分の単位を履修できます。学部の4年生6名、5年生4名の合計10名の優秀な学生が履修します。基礎系教室に配属されますが、歯学研究特論や共通科目の受講も可能なので、多くの先生方にもお世話になるものと思います。歯学部の将来を担うべきやる気のある学生達です。どうかよろしく願いいたします。

戦略基盤研究成果発表会が行われました

歯学部研究活動委員会 入江 太郎

去る平成23年3月26日(土)、昭和大学歯科病院にて昭和大学大学院歯学研究科・口腔癌包括的研究センター平成22年度合同シンポジウムが開催されました。今回のシンポジウムは、平成20年度より実施されている文部科学省私立大学戦略的研究基盤支援事業の補助を受けた「分子的理解に基づいた口腔癌の先端的研究－発症メカニズムの解明から QOLの向上を目指した包括的リハビリテーションまで－」の報告会と、平成22年度より新たに始まったもう一つの同事業の補助による「デンタルイノベーションを目指した集学的研究拠点形成－アンチエイジングに貢献する新たな付加価値の創生－」の報告会の合同開催となりました。前者の発表会は今回で3回目、後者は初めての開催です。宮崎歯学研究科長の開会挨拶に続き、東京大学大学院医学研究科加齢医学講座の大内尉義教授による「長寿遺伝子 Sirt1 と血管老化」と、愛媛大学大学院医学系研究科口腔顎顔面外科学分野の浜川裕之教授による「分子探索に基づく口腔癌の早期診断、治療法の開発」の2題の特別講演が行われました。大変興味深い講演でありフロアからの活発な議論が相次ぎました。続いての各研究班による研究成果発表でも会場は参加者に溢れ熱心な議論の後、口腔癌包括的研究センター代表の立川哲彦教授の挨拶で全ての会が終了しました。



準備運営担当の口腔生化学教室、口腔生理学教室、口腔病理学教室と致しまして、各研究班のシンポジストの先生方をはじめ、ご協力頂いた多くの皆様に厚く御礼申し上げます。

平成23年度白衣授与式 進級式が行われました

教育委員長 井上 美津子

平成23年度の白衣授与式が4月1日に、また2年生から5年生までの進級式が4月1日、6年生の進級式が4月4日に行われました。

白衣授与式は今年で3回目を迎えましたが、4月1日ということで入職式と重なってしまったため、4号館の600号教室で行われました。5年生は早めに集まりリハーサルを行った後、10時45分から開式となりましたが、開式に先立ってこの度の東日本大震災の被災者の方々に黙祷を捧げました。授与される白衣も東北地方から送られてくるものでしたので、当日に間に合うか心配しましたが、無事到着しました。この白衣授与式は、5年生が臨床実習を開始するに当たり、大学より白衣を授与して臨床実習生としての心構えを新たにしてもらおうというものです。長谷川歯学教育研修センター長の司会のもとで、式は厳粛に進行し、宮崎学部長の告辞、4年時の成績優秀者の表彰に続いて、8名の教員から白衣の授与が行われました。一人ひとり白衣を着せかけられて、皆神妙な面持ちでした。学生代表の宣誓の後、学長、病院長、看護師長からの祝辞があり、皆で記念撮影を行いました。ご父兄も多数参加して頂きました。

進級式は、2年生から5年生はそれぞれの講義室で、6年生は上條講堂で行われ、学部長、学生部長、教育委員長からの挨拶や説明、事務からの伝達事項などが伝えられ、2年生と5年生は新しい指導担任の紹介も行われました。この一年しっかり学んでいただきたいと思います。

インプラントセンター長を拝命いたしました

歯科補綴学教室 尾関 雅彦

本年4月1日より本学歯科病院インプラントセンターのセンター長を拝命いたしました。平成21年の4月に開設後、同センターの礎を築かれた初代センター長の岡野友宏病院長から引き継がせて頂きますので、大役に身が引き締まる思いです。本学のインプラントセンターは現在、歯科放射線科、口腔外科、高齢者歯科、歯科補綴科ならびに歯周病科からの登録医34名が連携診療をすることで運営されており、このような多数の専門各科が協同調整している診療体制は、他の歯科大学にはない誇るべきことです。

今後も本学独自のインプラントセンターを充実させ、



本邦屈指の診療施設と発展させるために、“Heart, Art and Science”をモットーに、インプラント治療にあたっていこうと思います。Heart とは患者さんを思いやる優しい心と、医療人としての自負心を持つことです。Art とは優れた医療技術を持ち、常に技術の向上に努めることです。Science とは客観的事実に裏付けられた歯科医学と、先進性に富む歯科医学を探求することです。

今後とも歯科病院内の多数の診療各科の先生方や放射線技師、看護師、歯科衛生士、歯科技工士ならびに事務職員の方々の温かい御支援と御協力を頂きまして、インプラントセンターをより一層、発展させたいと思いますので、どうか宜しく願い申し上げます。

医療情報リテラシー教育が行われました

歯科医学教育推進室 片岡 竜太

「歯科医療に必要な信頼できる情報を入手して活用することができる」を一般目標とした6年一貫の「医療情報リテラシー教育」を図書館司書である和田佳代子(歯学部兼任講師)、川口里美、高橋由佳3氏のご協力を得て2年生、3年生、4年生、5年生に対して行っています。初期目標「歯科医療に必要な情報に効果的にアクセスするために、適切なキーワードを選択し、情報や情報源の信頼度を評価することができる」を達成するために、2年生に対しては4月14日、21日、3年生に対しては4月6日、13日、19日、20日に授業を行いました。信頼できる情報源とその活用方法が書いてある「情報活用入門」をテキストとして配布し、「疑問を明確にして、検索キーワードを選択し、図書や Web 検索を行う。その結果から信頼できる情報を吟味し調べた内容を要約する」事を課題にしました。全員ノートパソコンを持参して、e-learningシステムで提示されたミニシナリオに対して、web による情報の検索を行い、用いた検索キーワードと参照した web サイトを回答しました。授業中に学生の回答を e-learning システムで集計し、不正解が多い部分を中心に、和田さんに解説してもらいました。できなかった部分を中心に解説する授業では、学生はノートを取りながら、真剣に聞いていました。3年生に対しては「医学中央雑誌」の使い方と「診療ガイドライン」に関連した演習も実施しました。学生が臨床実習で、担当した患者さんの診断や治療方針を決定し、予後进行评估する際に、医療情報を吟味して活用できるように、今後も歯科病院図書室のご支援をいただき指導を続けていきます。



新任のご挨拶

総合内科 奥田 健太郎

この度、前任の田崎医師の後をうけ、歯科病院総合内科に赴任いたしました奥田健太郎と申します。私は平成6年に昭和大学病院第一内科、現在の呼吸器アレルギー内科に入局し、主に肺癌・胸膜中皮腫などの呼吸器悪性腫瘍の患者さんを診てまいりました。



入局して10年くらいは、呼吸器内科という枠にとらわれず、内科全般にわたり幅広い患者さんを数々の病院で診てまいりました。今回総合内科で医療に従事するにあたり、以前に培ってきた経験を生かすことができると考えております。

今までは仕事時間のほとんどを、病棟業務、外来に費やしてまいりました。医師人生ではじめて、病棟を持たない日々を過ごすこととなり、カラダは少し楽になったようですが、その分、歯科医師の先生方の仕事の側方支援、そして学生や研修医の教育等、新しい役割を仰せつかり、責任の重さを感じております。これまで歯科の先生との交流といえば、歯の治療をして頂いたくらいで、歯科病院ではまだわからないことが多いですが、これからよろしくお願い致します。

診療統計(平成23年3月分)

医事課課長 久米 徳明

	患者数	1日平均	前月1日平均	前年1日平均
外来患者	18,108	696.5	777.7	800.5
入院患者	484	15.6	16.7	16.1

受賞

広報委員長 井上 富雄

第2回日本歯科 CAD/CAM 学会(4月2, 3日)
[優秀ポスター賞]

- ・栗山壮一(歯科理工学兼任講師):
演題名「ジルコニアフレームに対する CAD/CAM を用いたセラミック前装法の検討」
- ・照井優一(大学院歯学研究科4年/歯科理工学専攻):
演題名「ナノジルコニアを用いた陶材前装方法の検討 -陶材前装後の強度評価及び疲労耐久性-」



第8回韓国障害者歯科学会(4月9日)
[優秀発表賞]

- ・野村佳世(大学院歯学研究科4年/口腔衛生学専攻):
演題名「Influence of Command on Tongue Elevation during Swallowing」

第8回韓国障害者歯科学会に参加しました

大学院歯学研究科(口腔衛生学専攻) 野村佳世

4月9日に Gang Dong Kyung Hee University Hospital で開催された第8回韓国障害者歯科学会(KADH2011)に参加しました。学会のメインテーマは「分かち合いの世界への道」でした。

演題数は口演5題、ポスター発表28題というアットホームな雰囲気学会でした。KADH は口腔衛生学の向井教授が理事長を務める日本障害者歯科学会と国際学術交流アクションプランによる交流をしているため、日本からは口演1題、ポスター発表14題でした。

注意欠陥・多動性障害(ADHD)をテーマとした国際シンポジウムでは、日韓ともに発達障害への支援は大きな課題であることを改めて感じました。

シンポジウムとともに日本大学歯学部・小児歯科学講座の白川哲夫教授が東日本大震災について現状報告と韓国からの救援活動に対する感謝の意を発表されました。ソウルの方々も東日本大震災に強い関心を抱いている様子で、街中に日本への応援ポスターが貼られていました。会場を離れた街中でも「分かち合いの世界への道」のテーマを思い、他国の善意を再認識し、心から感謝する学会となりました。



私はポスター発表で優秀発表賞を頂き、今後の大きな励みとなりました。このような機会を与えて下さった向井教授をはじめ、弘中准教授、内海先生、教室の先生方に心より感謝致します。

行事予定

広報委員長 井上 富雄

6月 3日(金): D2防災訓練

6月18日(土): 父兄会総会

6月25/26日(土日): 富士吉田寮祭・オープンキャンパス

昇任・採用

広報委員長 井上 富雄

飯島毅彦 教授(歯科麻酔科)、七田俊晴 講師(高齢者歯科)、マイヤース三恵 講師(総合歯科)、大岡貴史 講師(口腔衛生学)、奥田健太郎 講師(総合内科)、谷口誠 助教(口腔微生物学)、本橋研 助教(学部長直属)、渡邊賢礼 助教(学部長直属)

編集後記

歯科薬理学教室 坂井 信裕

東北地方太平洋沖地震により、亡くなられた多くの方のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆様にお見舞い申し上げます。被災地の一日も早い復旧・復興を心よりお祈り申し上げます。